# 科学研究費助成事業

研究成果報告書



平成 30 年 5月 21 日現在

<ul> <li>機関番号: 14401</li> <li>研究種目: 挑戦的萌芽研究</li> <li>研究期間: 2016 ~ 2017</li> <li>課題番号: 16K13616</li> <li>研究課題名(和文)力検出を用いた近接場光学顕微鏡の有機分子の画像化機構の研究</li> <li>研究課題名(英文) Imaging mechanism for molecules by optical near-field microscopy using force detection</li> <li>研究代表者</li> <li>菅原 康弘(SUGAWARA, YASUHIRO)</li> <li>大阪大学・工学研究科 ・教授</li> <li>研究者番号: 40206404</li> <li>交付決定額(研究期間全体): (直接経費) 2,800,000円</li> </ul>	
<ul> <li>研究種目:挑戦的萌芽研究</li> <li>研究期間: 2016 ~ 2017</li> <li>課題番号: 16K13616</li> <li>研究課題名(和文)力検出を用いた近接場光学顕微鏡の有機分子の画像化機構の研究</li> <li>研究課題名(英文)Imaging mechanism for molecules by optical near-field microscopy using force detection</li> <li>研究代表者</li> <li>菅原 康弘(SUGAWARA, YASUHIRO)</li> <li>大阪大学・工学研究科 ・教授</li> <li>研究者番号: 40206404</li> <li>交付決定額(研究期間全体): (直接経費) 2,800,000円</li> </ul>	機関番号: 14401
<ul> <li>研究期間: 2016 ~ 2017</li> <li>課題番号: 16K13616</li> <li>研究課題名(和文)力検出を用いた近接場光学顕微鏡の有機分子の画像化機構の研究</li> <li>研究課題名(英文)Imaging mechanism for molecules by optical near-field microscopy using force detection</li> <li>研究代表者</li> <li>菅原 康弘(SUGAWARA, YASUHIRO)</li> <li>大阪大学・工学研究科 ・教授</li> <li>研究者番号: 40206404</li> <li>交付決定額(研究期間全体): (直接経費) 2,800,000円</li> </ul>	研究種目:挑戦的萌芽研究
課題番号: 16K13616 研究課題名(和文)力検出を用いた近接場光学顕微鏡の有機分子の画像化機構の研究 研究課題名(英文)Imaging mechanism for molecules by optical near-field microscopy using force detection 研究代表者 菅原 康弘(SUGAWARA, YASUHIRO) 大阪大学・工学研究科 ・教授 研究者番号:40206404 交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円	研究期間: 2016~2017
研究課題名(和文)力検出を用いた近接場光学顕微鏡の有機分子の画像化機構の研究 研究課題名(英文)Imaging mechanism for molecules by optical near-field microscopy using force detection 研究代表者 菅原 康弘(SUGAWARA, YASUHIRO) 大阪大学・工学研究科 ・教授 研究者番号:40206404 交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円	課題番号: 16K13616
研究課題名(英文) Imaging mechanism for molecules by optical near-field microscopy using force detection 研究代表者 菅原 康弘(SUGAWARA, YASUHIRO) 大阪大学・工学研究科 ・教授 研究者番号:40206404 交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円	研究課題名(和文)力検出を用いた近接場光学顕微鏡の有機分子の画像化機構の研究
研究課題名(英文) Imaging mechanism for molecules by optical near-field microscopy using force detection 研究代表者 菅原 康弘(SUGAWARA, YASUHIRO) 大阪大学・工学研究科 ・教授 研究者番号:40206404 交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円	
研究課題名(英文)Imaging mechanism for molecules by optical near-field microscopy using force detection 研究代表者 菅原 康弘(SUGAWARA, YASUHIRO) 大阪大学・工学研究科 ・教授 研究者番号:40206404 交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円	
<ul> <li>研究代表者</li> <li>菅原 康弘(SUGAWARA, YASUHIRO)</li> <li>大阪大学・工学研究科 ・教授</li> <li>研究者番号:40206404</li> <li>交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円</li> </ul>	研究課題名(英文)Imaging mechanism for molecules by optical near-field microscopy using force detection
<ul> <li>研究代表者</li> <li>菅原 康弘(SUGAWARA, YASUHIRO)</li> <li>大阪大学・工学研究科 ・教授</li> <li>研究者番号:40206404</li> <li>交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円</li> </ul>	
<ul> <li>         前 7 0 0 C C C C C C C C C C C C C C C C C</li></ul>	研究代表者
<ul> <li>大阪大学・工学研究科 ・教授</li> <li>研究者番号:40206404</li> <li>交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円</li> </ul>	菅原 康弘(SUGAWARA YASUHIRO)
大阪大学・工学研究科 ・教授 研究者番号:40206404 交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円	
研究者番号:40206404 交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円	大阪大学・工学研究科 ・教授
研究者番号:4 0 2 0 6 4 0 4 交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円	
研究者番号:40206404 交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円	
研究有留亏:40206404 交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円	
交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円	研究者
	交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文):本研究では、力検出を用いた近接場光学顕微鏡の超高感度化・超高分解能化を実現す るとともに、その原子分解能観察の機構を検討した。まず、物質表面の構造と局在する近接場光の強度分布を 原子スケールで超高感度・超高分解能に観察できることを実証した。試料表面としては、原子レベルで清浄で平 坦な表面を用いる必要があり、サファイアの(0001)表面を取り上げた。また、近接場光分強度の探針・試料間距 離依存性を検討し、近接場光が試料表面の原子の極近傍に局在していることを見出した。さらに、画像化機構を 検討し、サファイア(0001)表面のアルミニウム原子が、原子レベルで画像化されていることを解明した。

研究成果の概要(英文):We investigated the method for measuring the optical near-field using photon-induced force detection with high sensitivity and high spatial resolution. We also investigated the mechanism of the atomic resolution imaging. We demonstrated atomic resolution imaging of the near field on the -Al203 (0001) surface of a prism. We invstigated the spatial distribution of the near field by scanning at different tip-sample distances and found that the atomic corrugation of the near-field signal was observed at greater distances than that of the atomic force microscopy signal. We clarified that the Al atoms on the -Al203 (0001) surface were resolved at an atomic level.

研究分野:走査型プローブ顕微鏡

キーワード: 近接場光学 光起電力

#### 1. 研究開始当初の背景

物質と光との電磁相互作用を原子レベル で直接測定できる装置が開発されれば、光科 学や表面科学、材料科学、生物科学など多く の分野で革新的な研究手段になることは間 違いない。そのため、回折限界を越える高分 解能な光学顕微鏡を開発しようとする試み が行われてきた。具体的には、光照射により 物質に誘起された分極がその近傍につくる 電磁場、すなわち、物質近傍に局在する光(近 接場光)を検出し、高分解能な光学顕微鏡を 実現しようとするものである。しかし、先鋭 化した光ファイバや金属探針を用いる従来 の方式では、原子分解能(0.2nm 以下)での観察 は困難であった。

最近、本研究代表者は、物質表面に局在す る光(近接場光)の強度分布を力として検出 するという新しい概念の光学顕微鏡につい て研究を行っている(図1)。この顕微鏡で は、原子間力顕微鏡の力センサーである半導 体探針を近接場光の中に挿入し、半導体探針 の先端に電子・正孔対を生成させ、その結果 生じる半導体探針先端の表面電位(光起電 力)を力として検出する。この新しい概念の 光学顕微鏡で原子分解能観察が可能かどう かを実験的に検討し、世界で初めて、サファ イア(α-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)表面に局在する近接場光を原子 分解能で測定することに成功した(Phys. Rev. Appl., 3, 044020, 2015)。しかし、その原子分 解能観察の画像化機構については、十分に理 解されていない。



図1 力を用いて近接場光を検

## 出する新しい光学顕微鏡

2. 研究の目的

本研究は、「力検出を用いた近接場光学 顕微鏡の超高感度化・超高分解能化を実現 すると共に、その原子分解能観察の機構を 解明すること」を目的とする。

- 具体的研究課題は、以下の点である。
- 近接場光を力として高感度・高分解能に 測定するため、様々な構成要素を低ノイ ズ化する。

物質表面に局在する近接場光分布の距離依存性を測定し、画像化機構を検討する。

原子レベルでの物質と光との相互作用は、こ れまでほとんど研究されていない。本研究で は、原子分解能を有する光学顕微鏡の画像化 機構を解明するという、これまで誰も成し得 なかった究極の高い目標に挑戦する。

3. 研究の方法

まず、近接場光を力として高感度・高分解 能に測定するため、近接場光学顕微鏡の様々 な構成要素の低ノイズ化を実現する。具体的 には、まず、カンチレバーの変位検出計の高 周波化と低ノイズ化を実現する。次に、力検 出の超高感度化と超高分解能化を実現する。 また、バックグランド光を低減した光照射系 を実現する。さらに、近接場光を力として高 分解能に測定するための条件を実験的に検 討する。

次に、近接場光の分布を高感度・高分解能 に観察できることを実証する。試料表面とし てサファイア( $\alpha$ -Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)表面を取り上げ、そ の表面の酸素原子(O)やアルミニウム原子 (Al)がどのように撮像されるかを理論的・ 実験的に検討し、画像化機構を解明する。

#### 4. 研究成果

<u>1) バックグランド光を低減した光照射系の</u> 実現

振幅変調された光をカンチレバー先端に照 射し、カンチレバーの周波数シフトに現れる 変調成分をロックインアンプで検出すこと により、近接場光成分を測定する(図2)。 近接場光を高分解能に検出するためには、バ ックグランド光を低減した光照射系を実現 することが重要である。そこで、光学レンズ やプリズム表面での不要反射が極限まで低 減するように照射光学系を改良した。



図2 表面構造と近接場光分布の分離測定

### <u>2)物質表面に局在する近接場光分布の距離</u> 依存性の測定

近接場光分強度の探針・試料間距離依存性を 検討し、その画像化機構を検討した。試料表 面としては、原子レベルで清浄で平坦な表面 を用いる必要があり、バルクのサファイア (a-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)からなるプリズムを超高真空中で 加熱処理することにより得られる(0001)表面 を取り上げた。近接場光像より、サファイア 表面のアルミニウム原子(A1)が輝点として 観察されていることを確認した。また、アル ミニーム原子の近傍に近接場が局在するこ とを探針・試料間距離依存性より明らかにし た(図3)。





5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雑誌論文〕(計 13件)

 E. Arima, H. F. Wen, Y. Naitoh, Y. J. Li, and <u>Y. Sugawara</u>, "KPFM/AFM imaging on TiO<sub>2</sub>(110) surface in O<sub>2</sub> gas", *Nanotechnology*, 査読有, 29, 105504 (1-8), 2018.

DOI:10.1088/1361-6528/aaa62c

② J. Yamanishi, Y. Naitoh, Y. J. Li and Y. Sugawara, "Heterodyne Frequency Modulation Technique in Photoinduced Force Microscopy", *Phys. Rev. Appl.*, 査読 有, 9, 024031(1-5), 2018.

DOI:10.1103/PhysRevApplied.9.024031

③ Y. Kinoshita, Y. J. Li, S. Yoshimura, H. Saito and <u>Y. Sugawara</u>, "Magnetic resonance force microscopy using ferromagnetic resonance of a magnetic tip excited by microwave transmission via a coaxial resonator", *Nanotechnology*, 査読 有, 28, 485709(1-6), 2017.

DOI: 10.1088/1361-6528/aa90f4

④ E. Arima, Y. Naitoh, Y. J. Li, and <u>Y. Sugawara</u>, "Separation of Atomic-Scale Spin Contrast on NiO(001) by Magnetic Resonance Force Microscopy", *Journal of Physics: Condensed Matter*, 査読有, 29, 404001(1-6), 2017.

DOI:10.1088/1361-648X/aa815d

⑤ Y. Naitoh, R. Turanský, J. Brndiar, Y. J. Li, I. Štich, and <u>Y. Sugawara</u>, "Subatomic-scale force vector mapping above a Ge(001) dimer using bimodal atomic force microscopy, *Nature Physics*, 査読有, 13, 663-667, 2017.

DOI: 10.1038/NPHYS4083

- ⑤ J. Yamanishi, Y. Naitoh, Y. J. Li and <u>Y.</u> <u>Sugawara</u>, "Heterodyne Technique in Photoinduced Force Microscopy with Photothermal Effect", *Appl. Phys. Lett.*, 査 読有, 110, 123102(1-4), 2017. DOI: 10.1063/1.4978755
- ⑦ H. F. Wen, Y. J. Li, E. Arima, Y. Naitoh, <u>Y. Sugawara</u>, R. Xu, and Z. H. Cheng, Investigation of tunneling current and local contact potential difference on the TiO<sub>2</sub>(110) surface by AFM/KPFM at 78 K", *Nanotechnology*, 査読有, 28, 105704(1-6), 2017.

DOI: 10.1088/1361-6528/aa5aef

⑧ Y. Kinoshita, R. Turanský, J. Brndiar, Y. Naitoh, Y. J. Li, L. Kantorovich, <u>Y. Sugawara</u>, and I. Štich, "Promoting atoms into delocalised long-living magnetically modified state using Atomic Force Microscopy, "*Nano Letters*, 査読有, 16, 7490-7494, 2016.

DOI: 10.1021/acs.nanolett.6b03203E.

- ④ Arima, H. Wen, Y. Naitoh, Y. J. Li, and <u>Y. Sugawara</u>, "Development of Low Temperature Atomic Force Microscopy with an Optical Beam Deflection System Capable of Simultaneously Detecting the Lateral and Vertical Forces", *Rev. Sci. Instrum.*, 査読有, 87, 093113(1-6), 2016.
- L. Kou, Y. J. Li, T. Kamijyo, Y. Naitoh and <u>Y. Sugawara</u>, "Investigation of the surface potential of TiO<sub>2</sub> (110) by frequency-modulation Kelvin probe force microscopy" *Nanotechnology*, 査読有 27, 505704 (1-7), 2016. http://dx.doi.org/10.1088/0957-4484/27/50/ 505704
- Y. J. Li, S-H. Lee, Y. Kinoshita, Z-M Ma, H. Wen, H. Nomura, Y. Naitoh, and Y. Sugawara, "Growth Models of Coexisting p(2×1) and c(6×2) Phases on Oxygen-Terminated Cu(110) Surface Studied by Noncontact Atomic Force Microscopy at 78 K", *Nanotechnology*, 査 読有, 27, 205702(1-7), 2016. DOI:10.1088/0957-4484/27/20/205702
- J. Yamanishi, T. Tokuyama, Y. Naitoh, Y. J. Li\_and <u>Y. Sugawara</u>, "Distance Dependence of Atomic-Resolution Near-Field Imaging on the α-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> (0001) Surface Based on the Surface Photo-Voltage of a Silicon Probe Tip", *Nano Research*, 査読有, 9(2), 530-536, 2016.

DOI: http://doi.org/10.1063/1.4978755

(13) E. Arima, H. F. Wen, Y. Naitoh, Y. J. Li, and <u>Y. Sugawara</u>, "Development of low temperature atomic force microscopy with an optical beam deflection system capable of simultaneously detecting the lateral and vertical forces", *Review of scientific instruments*, 査読有, 87, 093113, 2016. DOI: http://dx.doi.org/10.1063/1.4962865

- <u>Y. Sugawara</u>, "Kelvin probe force microscopy with atomic resolution", 22<sup>nd</sup> International Conference and Expo on Nanoscience and Molecular Nanotechnology, November 6-8, 2017, Frankfurt, Germany (Keynote).
- ② <u>菅原康弘</u>、"走査型プローブ顕微鏡 (SPM)"第64回表面科学基礎講座 表 面・界面分析の基礎と応用、2017 年 10 月17日(火)、大阪大学・Σホール.
- ③ <u>Y. Sugawara</u>, "Simultaneous Characterization of Tunneling Current and Local Contact Potential Difference on TiO<sub>2</sub>(110) Surface", Energy Materials Nanotechnology (EMN) Europe Meeting, August 8th to 12th, 2017, Lyon, France (Invited talk).
- ④ Y. Sugawara, "Simultaneous Characterization of Tunneling Current and Local Contact Potential Difference on Rutile TiO<sub>2</sub>(110) surface", 2017 Collaborative Conference on Materials Research (CCMR), 26-30 June, 2017, Jeju island, South Korea (Invited talk).
- ⑤ 菅原康弘、"SPM の過去から未来まで"、 日本学術振興会マイクロビームアナリシス第141委員会、研修セミナー「SPM の 基礎と応用」、2017年4月20日~21日、 堀場製作所東京オフィス(基調講演).
- (6) <u>Y. Sugawara</u> "Atomic-resolution Simultaneous Imaging of Topography, Surface Potential and Dipole Moment on TiO<sub>2</sub>(110) Surface", The 2<sup>nd</sup> International Symposium on Recent Trends in Analysis Techniques for Functional Materials and Devices, January 18-19, 2017, Osaka, Japan (Invited talk).
- 7 <u>Y. Sugawara</u>, "Atomic-resolution Simultaneous Imaging of Topography, Surface Potential and Dipole Moment on TiO<sub>2</sub>(110) Surface", the 2nd Asia-Pacific Symposium on Solid Surfaces, 14-16 November, 2016, Taipei, Taiwan (Invited talk).
- (9) <u>Y. Sugawara</u>, "Atomic-scale Imaging of Electronic Properties of the TiO<sub>2</sub>(110) Surface by Electrostatic Force Microscopy", Collaborative Conference on 3D & Materials Research (CC3DMR) 2016, 20-24 June, 2016, Songdo Convensia, Incheon, South

Korea (Invited talk).

〔図書〕(計 1 件)

Y. J. Li, H. F. Wen, Z. M. Ma, L. Kou, Y. Naitoh, and <u>Y. Sugawara</u>, "Kelvin probe force microscopy with atomic resolution", (Kelvin Probe Force Microscopy From Single Charge Detection to Device Characterization, Edited by S. Sadewasser and T. Glatzel, Springer Series in Surface Science, 65, 437-463, 2018, Springer).

〔その他〕 ホームページ等 http://nanophysics.ap.eng.osaka-u.ac.jp/

np.//nanopnysics.ap.eng.osak

6. 研究組織

(1)研究代表者
 菅原 康弘 (SUGAWARA, Yasuhiro)
 大阪大学・大学院工学研究科・教授
 研究者番号: 40206404

<sup>〔</sup>学会発表〕(計 9 件)